

薬 剤 部

部長：滝田 敬子

2020年12月以降続く医療用医薬品の供給不安は解消の兆しがなく、老舗製薬企業の倒産はまさに青天の霹靂であった。令和7年度においても院内採用医薬品の確保に尽力した1年となった。

I 人事

昨年度末と同様に薬剤師17名・事務員1名の体制で業務にあたっている。

II 業務実績

1. 病棟関連業務

病棟薬剤業務実施加算は継続し算定することがで

きた。令和6年度末に欠員補充を行えたことで、薬剤管理指導料の算定件数は前年度に比べ増加傾向にある。

2. ジェネリック医薬品の使用促進

ジェネリック医薬品の使用割合は継続して90%以上を維持しており、後発医薬品使用体制加算1が算定できている。

3. 薬学生 病院実務実習

8月18日～11月2日の期間に1名が実習を行った。

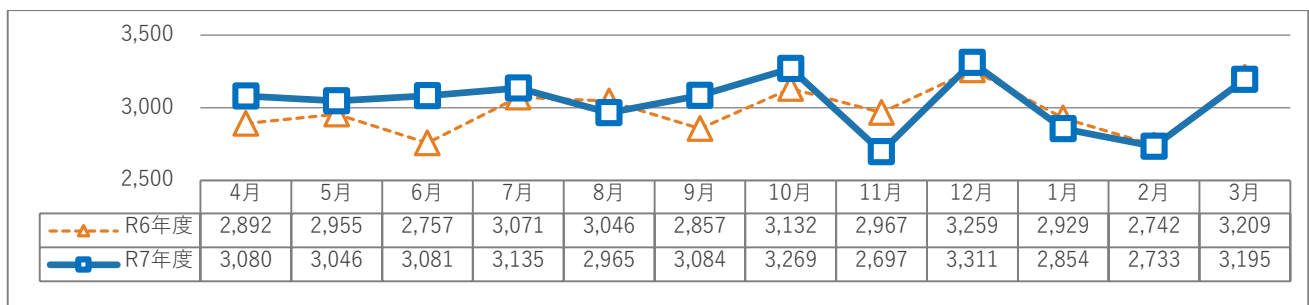


図1 外来院外処方箋枚数の推移

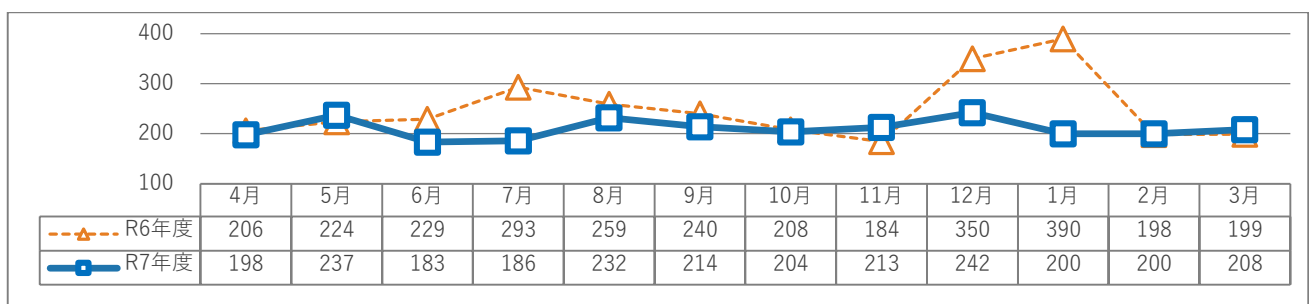


図2 外来院内処方箋枚数の推移

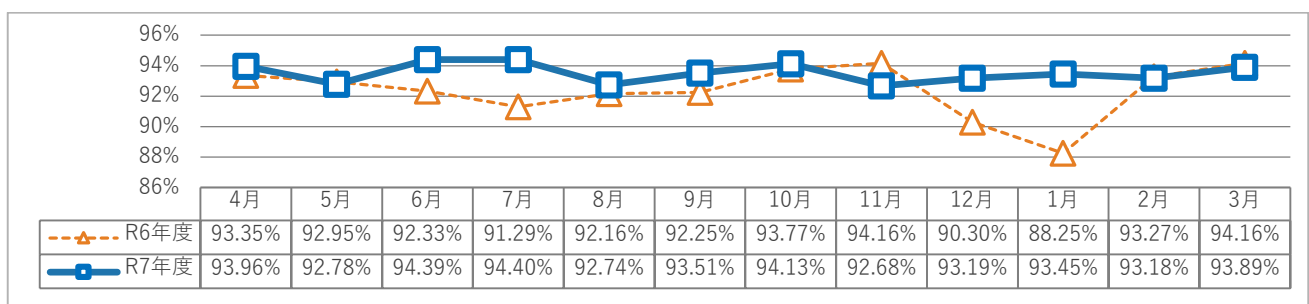


図3 院外処方箋発行率の推移

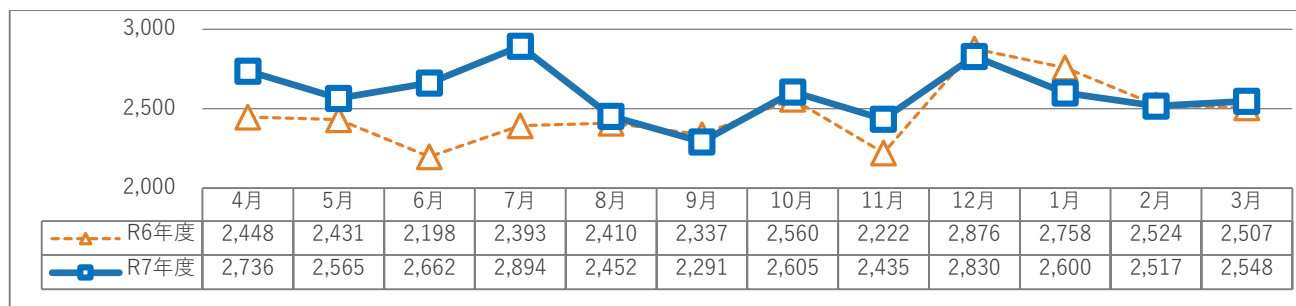


図4 入院処方箋枚数の推移

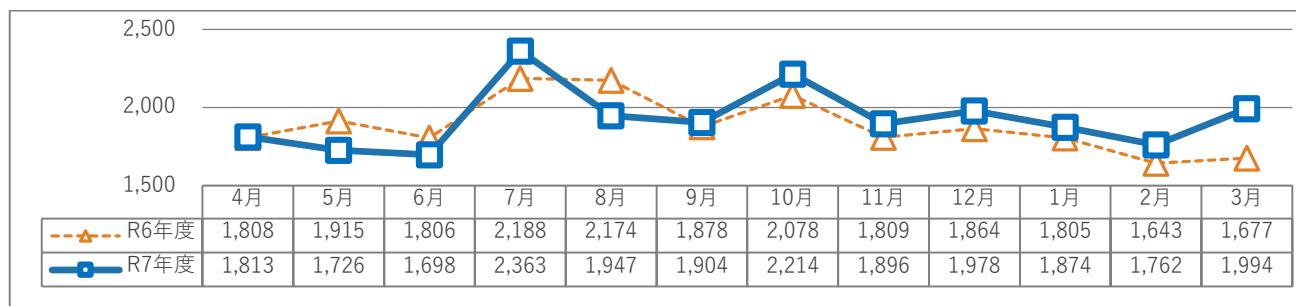


図5 外来注射箋枚数の推移

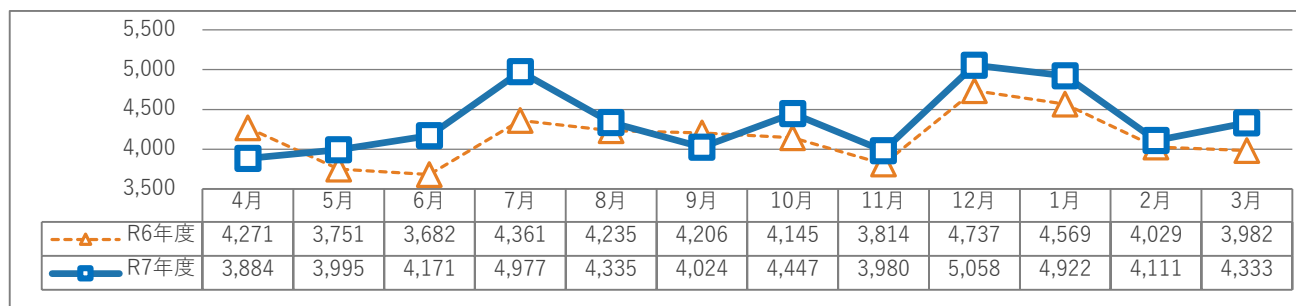


図6 入院注射箋枚数の推移

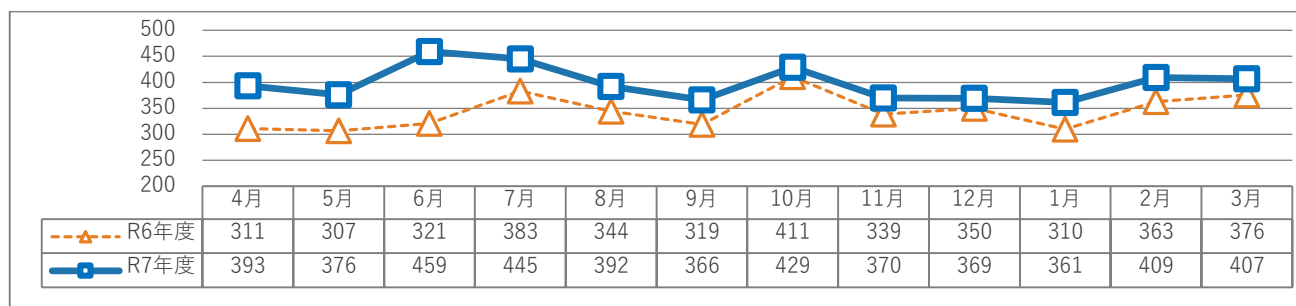


図7 薬剤管理指導料算定件数の推移

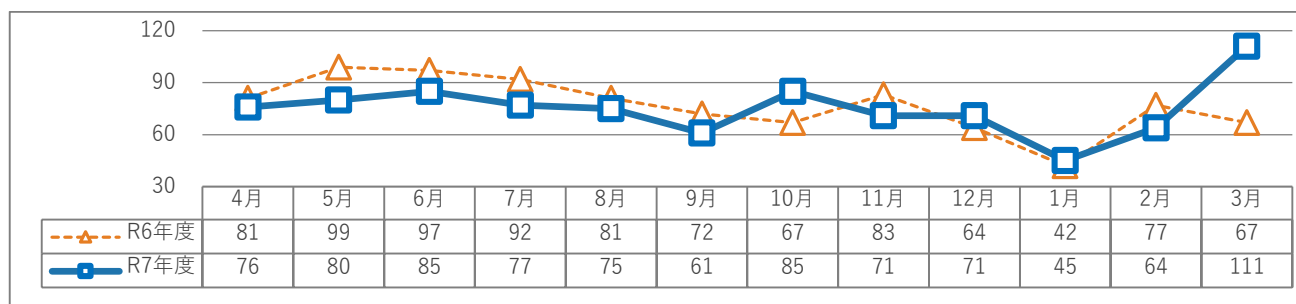


図8 退院時薬剤情報管理指導料算定件数の推移

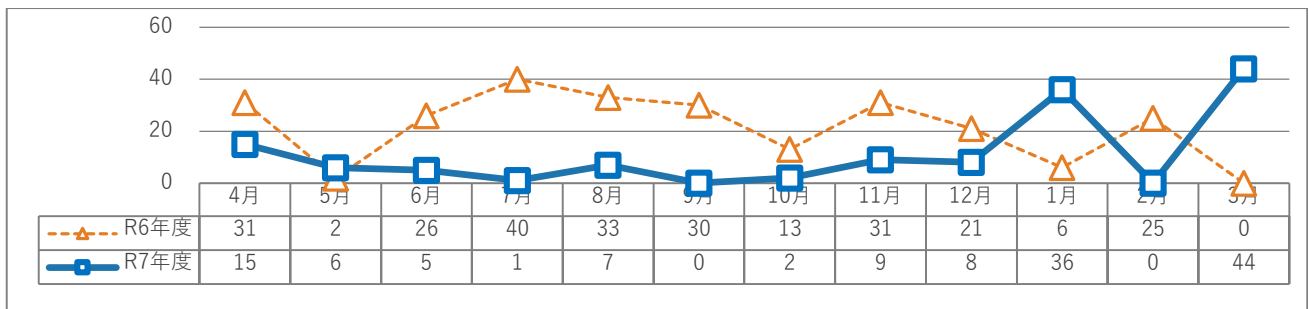


図9 無菌製剤処理料2算定件数の推移（TPN調製）

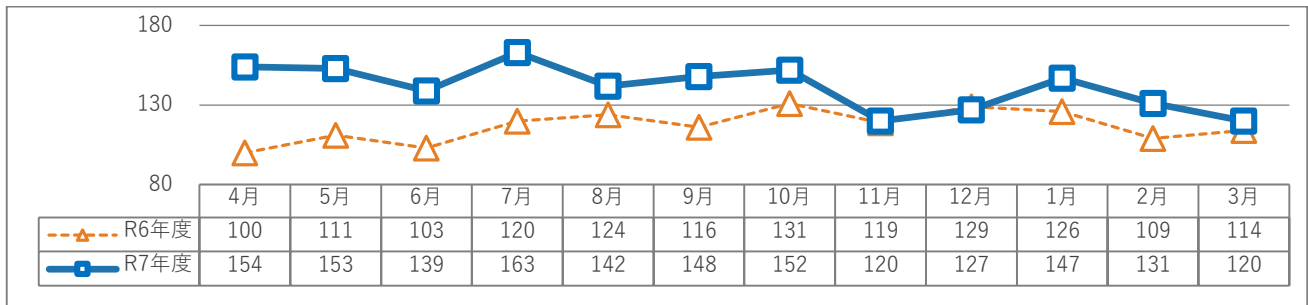


図10 無菌製剤処理料1算定件数の推移（外来抗がん剤調製）

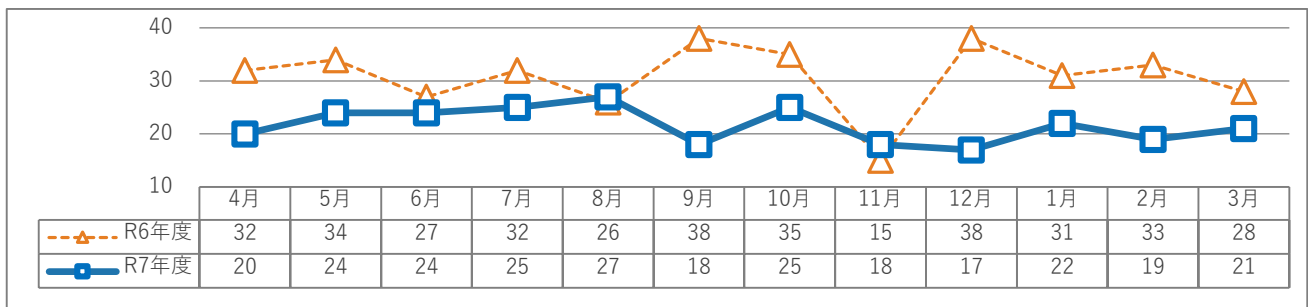


図11 無菌製剤処理料1算定件数の推移（入院抗がん剤調製）

中 央 検 査 部

技師長：小林 香織

I 人事

令和7年度は、新規採用1名、健診センターより1名異動があり正職員15名となりました。会計年度任用職員の臨床検査技師3名、事務員1名でした。

II 装置導入等

検査機器の老朽化等に伴い、以下が更新されました。

- ・デジタル脳波システム：Grael LT（フクダ電子）（2月）
- ・凍結組織切片作製装置：ティッシュ・テック ポーラーD（サクラファインテックジャパン）（3月）

III 業務実績

令和6年度末のFMS更新に伴う検査機器入替えにあたり医師、看護師から最も求められたのが、結果報告時間（TAT: Turn around Time）の短縮でした。従来の免疫検査機器は検体架設からの測定時間が長く、検体処理能力も低いもので、検査報告までに時間を要していました。そこで測定時間が20分と短く、検査処理能力も倍以上の仕様の機器に更新しTATの短縮を図りました。また、従来は分注機から生化学検査機器、免疫検査機器へ技師が検体を運んで架設していましたが、分注機から生化学・免疫検査複合機を連結し、検体が自動で搬送される仕組みを構築して自動化・効率化を図りました。

成果として、令和6年度は平日午前中の生化学・免疫検体の結果報告時間（TAT）は、平均65分でしたが、令和7年度、機器入替え後は平均42分と約23分間短縮することに成功しました。外来患者様の待ち時間の短縮に貢献できたと考えています。

更新以前の免疫機器は処理能力が低かったため、健診検体は外来検体が落ち着いてから測定していたので検査結果報告は午後となり、健診当日の診察には間に合いませんでした。更新後は健診検体の感染症や腫瘍マーカーなども午前中のうちに結果報告が可能となり、健診当日の診察時点で検査結果が判明しており、医師による指導ができ速やかに二次健診へつなぐことができるようになりました。

IV 学術業績

<院外発表>

- 1) グラム染色所見の報告が肝放線菌症の早期発見に繋がった一例（第51回鳥取県医学検査学会）：今嶋紗也、小林香織、村上裕絵、石原里絵 2025.10
- 2) コバス導入における検体検査の運用改善 Before～After（ロシュユーザーフォーラム広島）：村上裕絵 2025.12

V 認定有資格者

令和7年度は垣内真未技師が心電図検定1級を取得、森一葉技師が認定一般検査技師を取得しました。

中央検査部臨床検査技師の取得資格は以下のとおりです。

- ・細胞検査士（日本）／4名／田中美穂、小林きよこ、谷本真梨子、田中遥菜
- ・細胞検査士（国際）／3名／田中美穂、小林きよこ、谷本真梨子
- ・認定臨床微生物検査技師／1名／小林香織
- ・感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）／1名／小林香織
- ・超音波検査士（消化器）／5名／村上裕絵、加藤富子、西川裕子、後藤陽子、小林香織
- ・超音波検査士（循環器）／1名／西川裕子
- ・超音波検査士（体表臓器）／4名／加藤富子、村上裕絵、後藤陽子、西川裕子
- ・超音波検査士（健診）／3名／小林きよこ、小林香織、西川裕子
- ・二級臨床検査士（病理）／3名／小林きよこ、田中美穂、谷本真梨子
- ・二級臨床検査士（微生物）／1名／今嶋紗也
- ・二級臨床検査士（血液）／1名／小林きよこ
- ・緊急臨床検査士／3名／柿ヶ原大貴、森一葉、徳安友季
- ・認定病理検査技師／1名／小林きよこ
- ・認定一般検査技師／1名／森一葉
- ・JHRS認定心電図専門士／1名／垣内真未
- ・心電図検定1級／1名／垣内真未
- ・乳がん検診超音波検査実施技師／1名／加藤富子

- ・心不全療養指導士／1名／西川裕子
- ・鳥取県糖尿病療養指導士／2名／柿ヶ原大貴、村上裕絵
- ・有機溶剤作業主任者／3名／田中美穂、小林きよこ、谷本真梨子
- ・特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任者／4名／小林香織、田中美穂、小林きよこ、谷本真梨子
- ・化学物質管理者講習修了／1名／田中美穂
- ・保護具着用管理責任者教育終了／1名／田中美穂

VI 検査件数

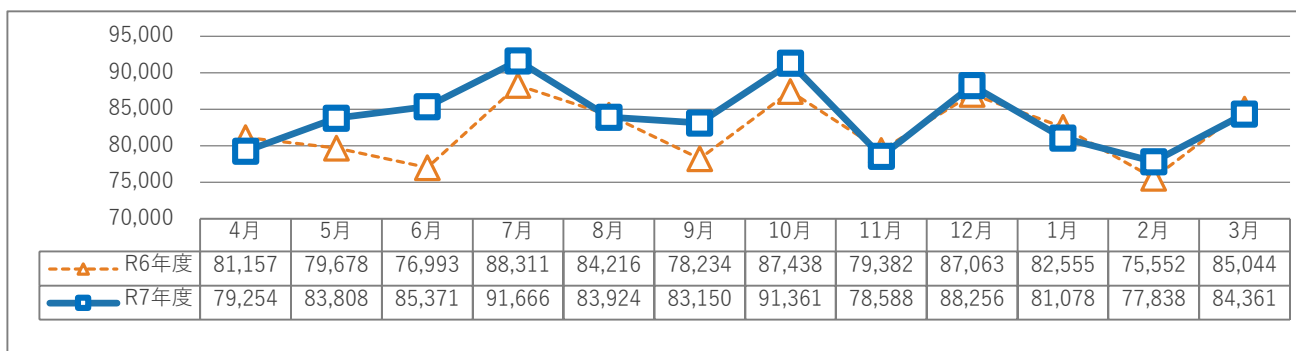


図1 検体検査 検査件数

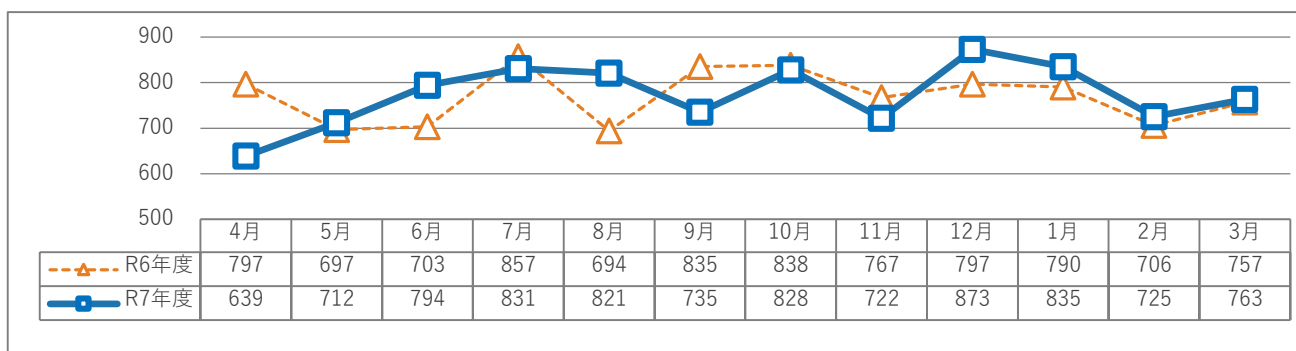


図2 細菌検査 検査件数

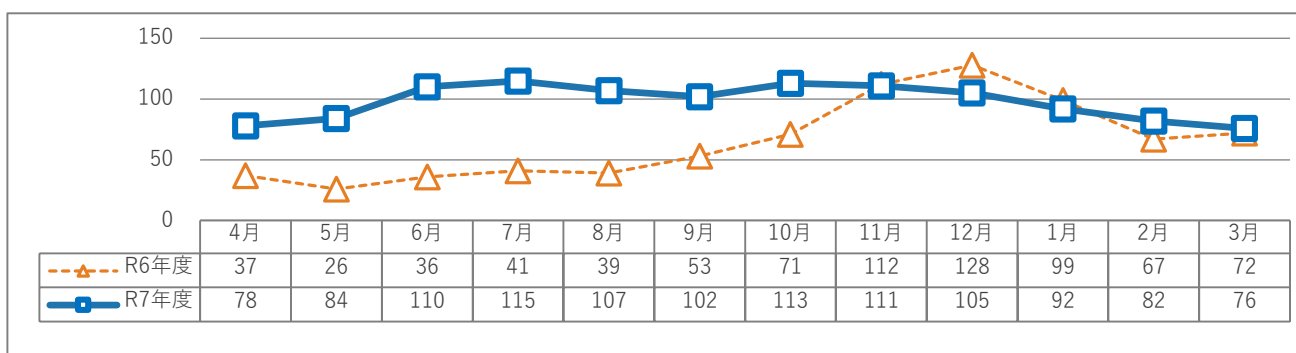


図3 遺伝子検査 検査件数

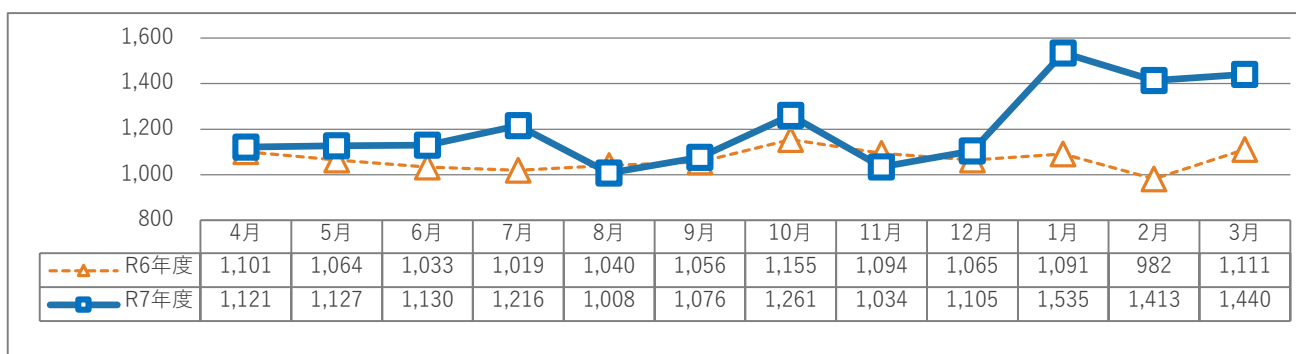


図4 生理検査 検査件数（健診除く）

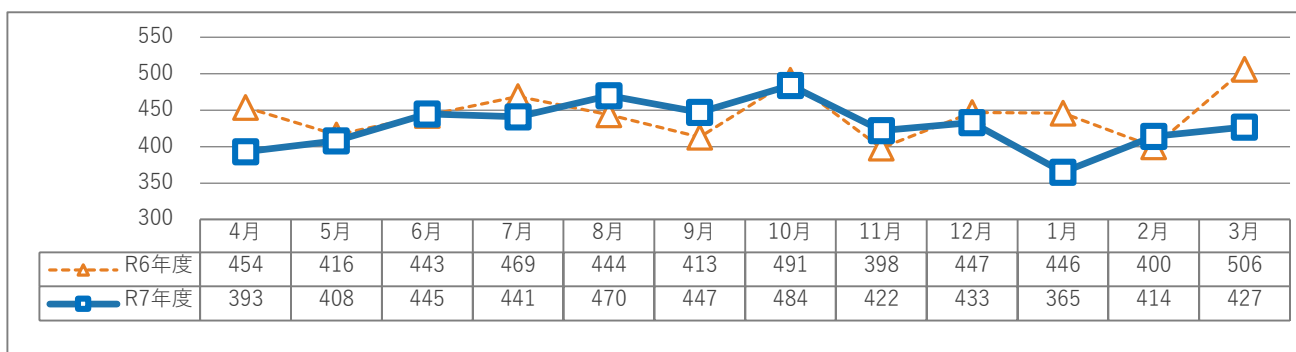


図5 病理検査 検査件数（組織・細胞診）

中 央 放 射 線 部

技師長：西尾 貴浩

I 装置導入等

放射線治療装置と汎用型血管撮影装置を廃棄した。

II 検査・治療関連

- ・冠動脈MRI健診始動に向け検査内容・運営方法の検討を行った。
- ・造影CT検査における医師立ち会いの見直しを行うに当たって、急変時の対応手順を確認し、体制を整えた。
- ・来年度からのPET-CT検査時間の変更に向け各部

署の調整を行った。

- ・放射線治療装置廃棄に伴い人員配置変更、業務の見直しを行った。

III 検査件数

検査件数検査件数は前年度とくらべ減少傾向であったが、更新して日が浅いMRIは増加した。(検査件数を下記に記す)

今後も検査手順の見直し装置の更新等で待ち時間の短縮を図って行きたい。

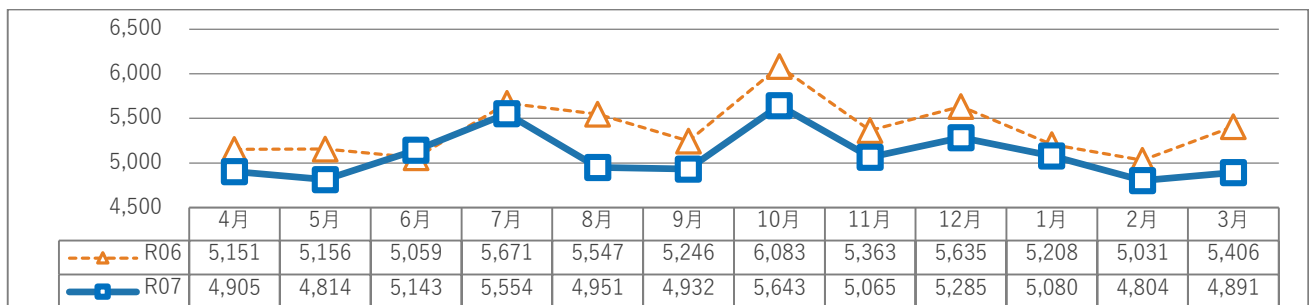


図1 総合計

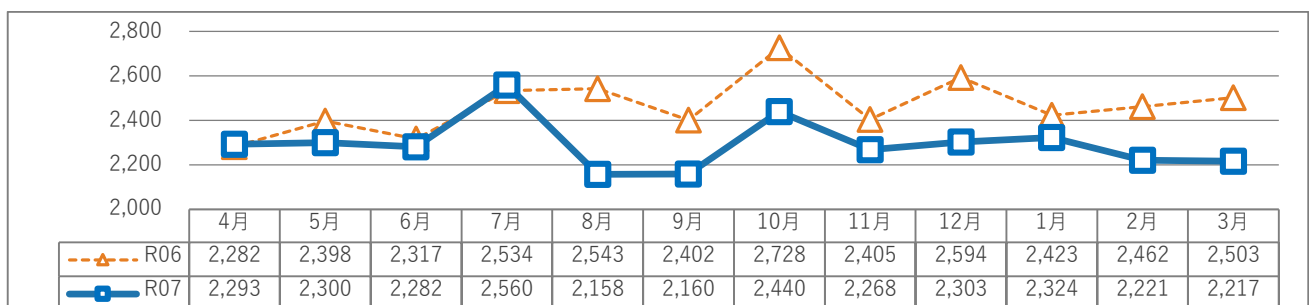


図2 一般撮影

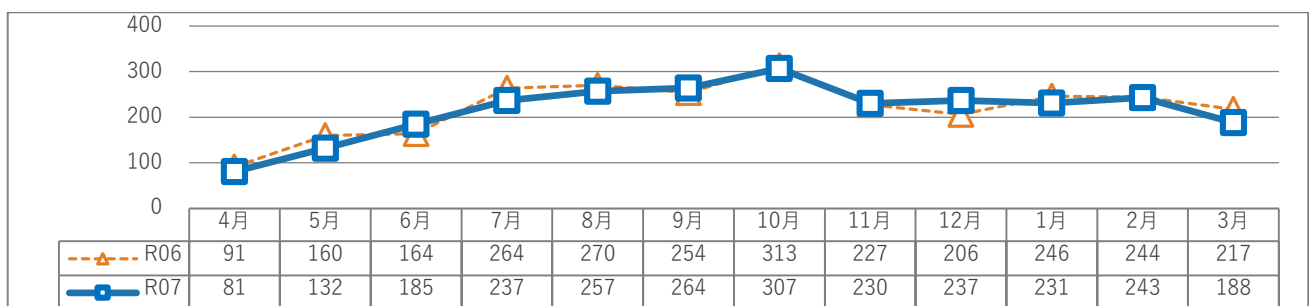


図3 乳房撮影

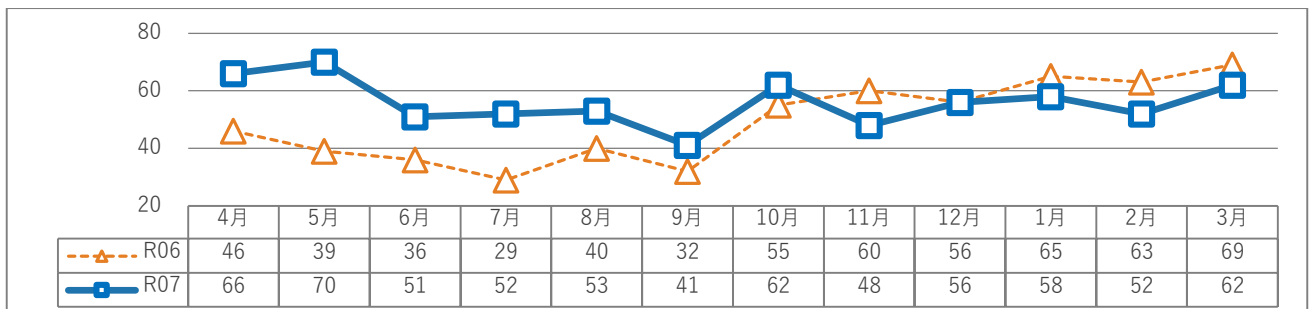


図4 歯科撮影

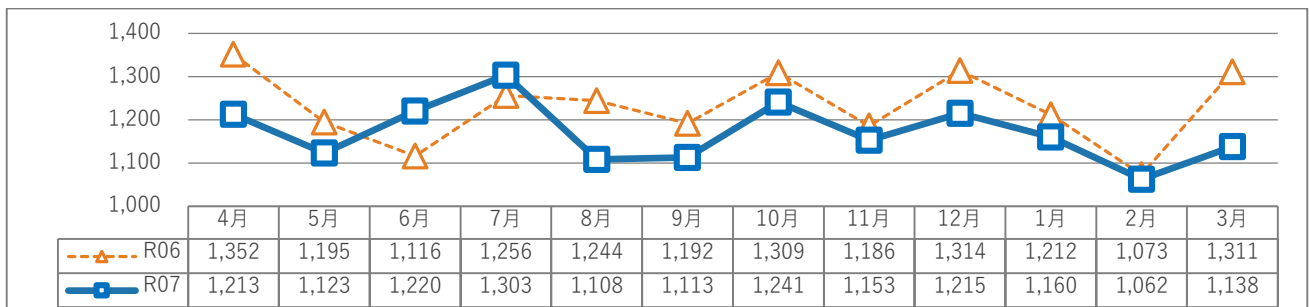


図5 CT検査

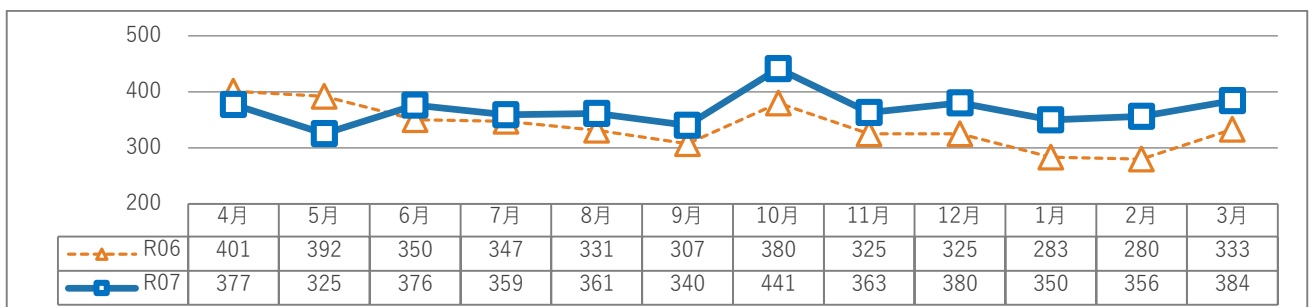


図6 MRI検査

※令和5年度の1～3月はMRI更新工事のため件数減少

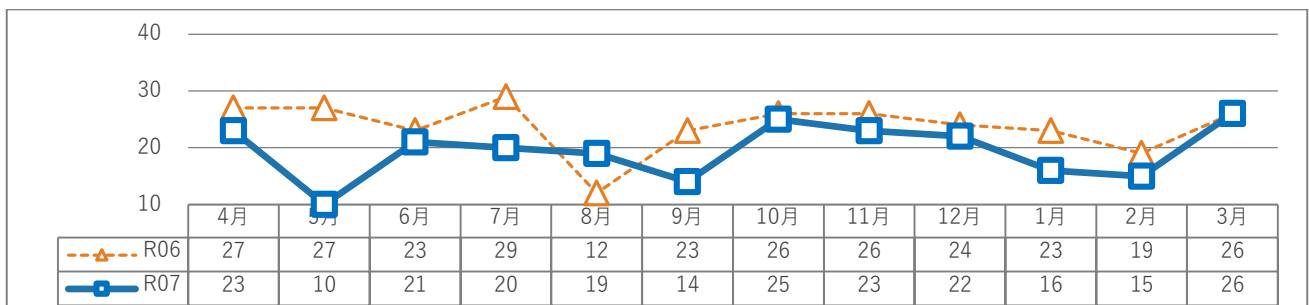


図7 PET/CT

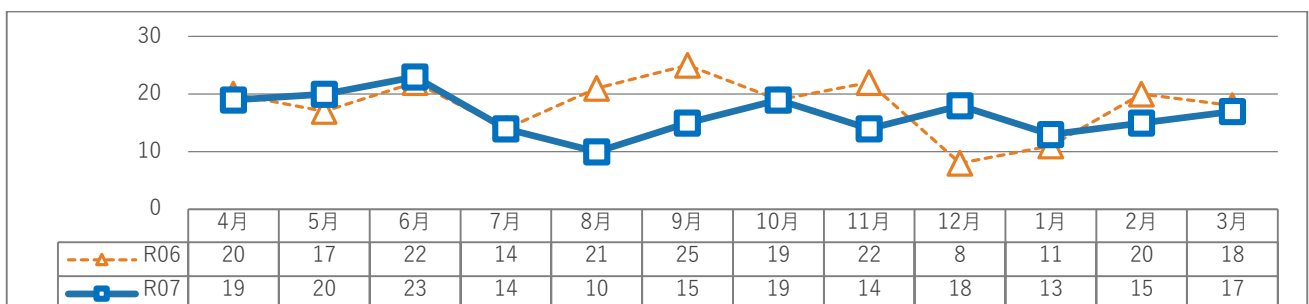


図8 RI検査

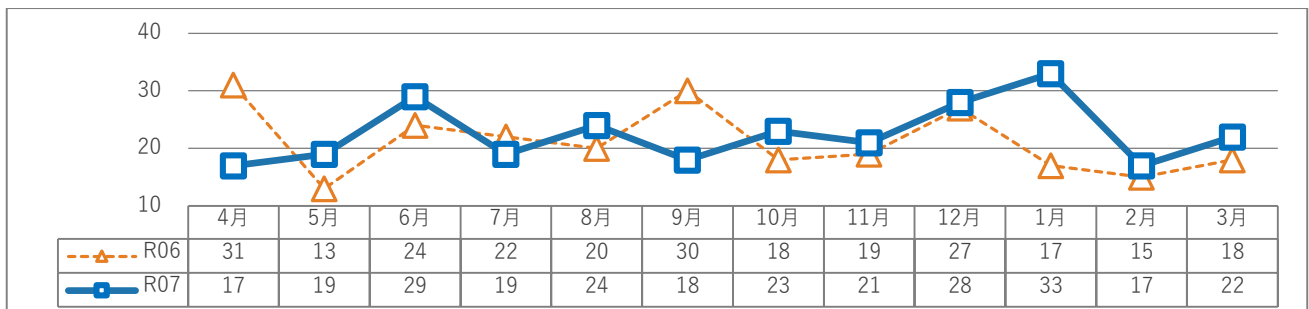


図9 血管撮影

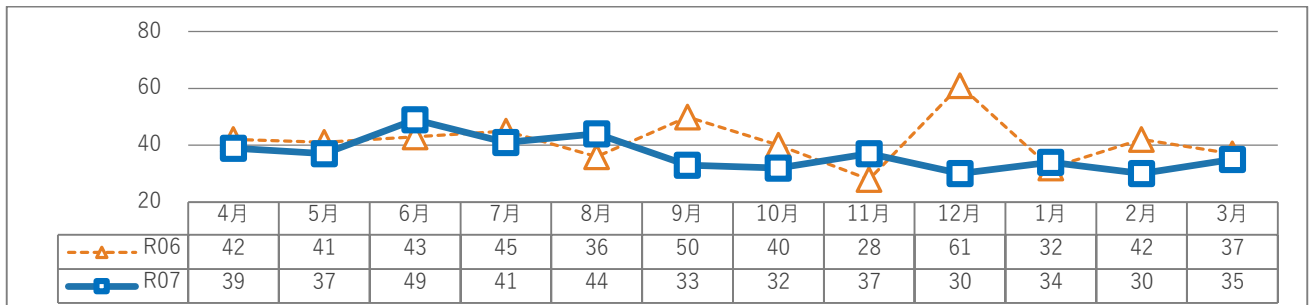


図10 造影透視（胃透視除く）

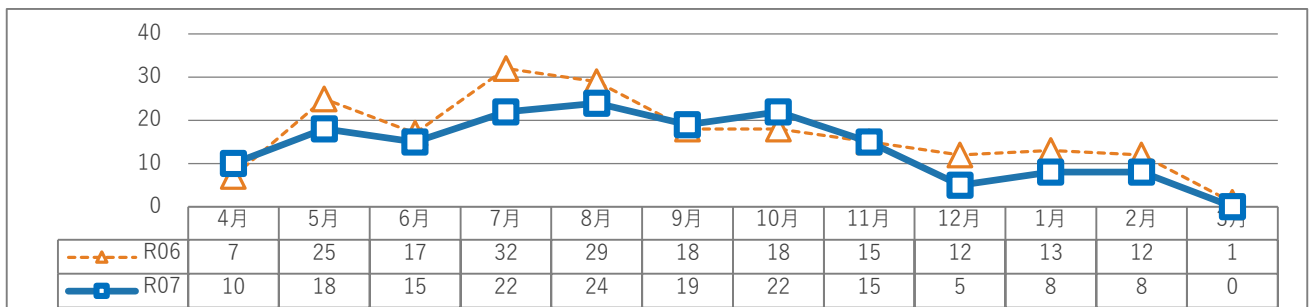


図11 胃透視検査

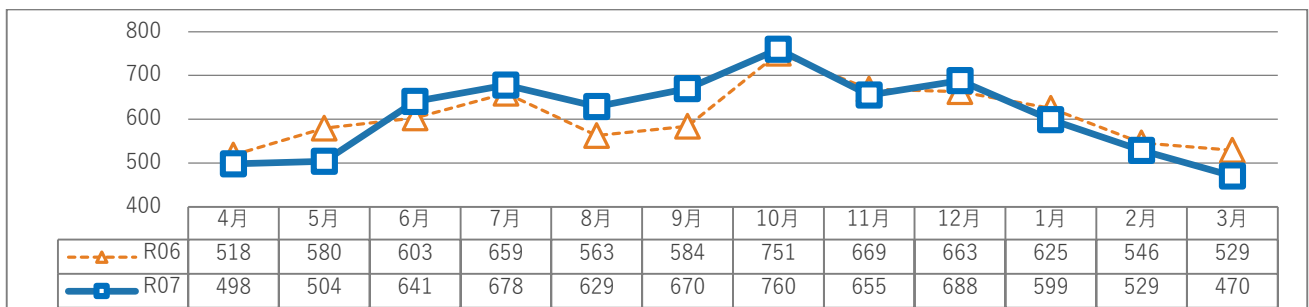


図12 内視鏡（内視鏡室＋透視室）

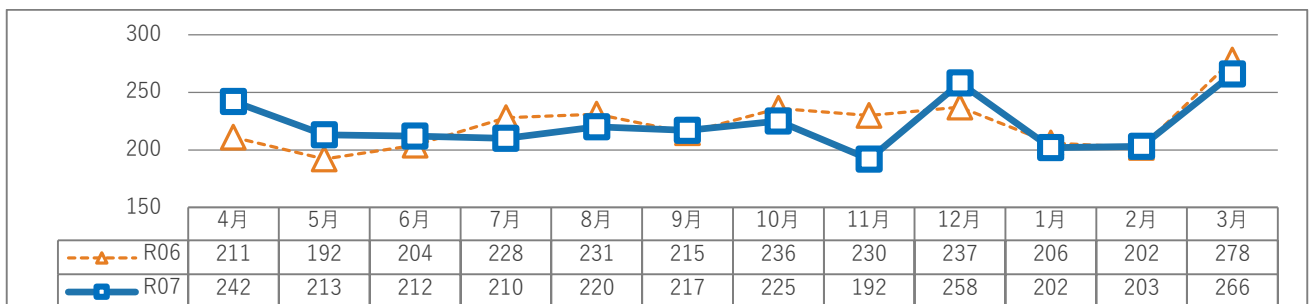


図13 画像出力（CD＋フィルム）

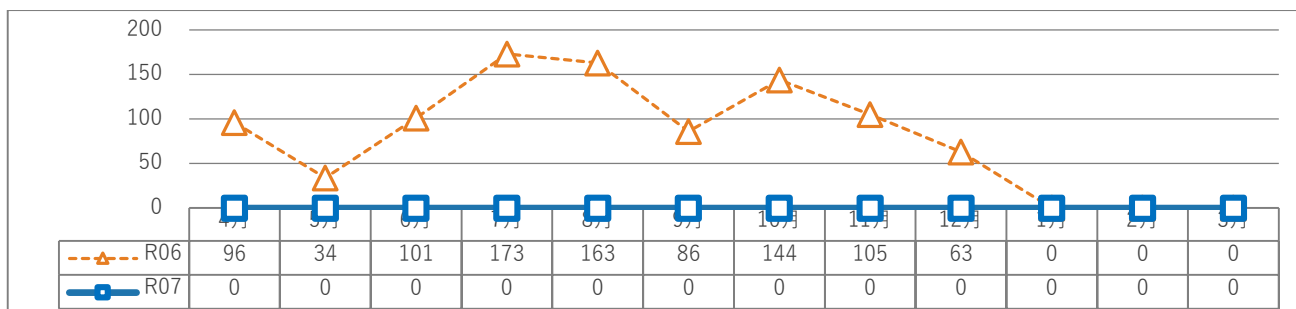


図14 放射線治療（計画含む）【終了】

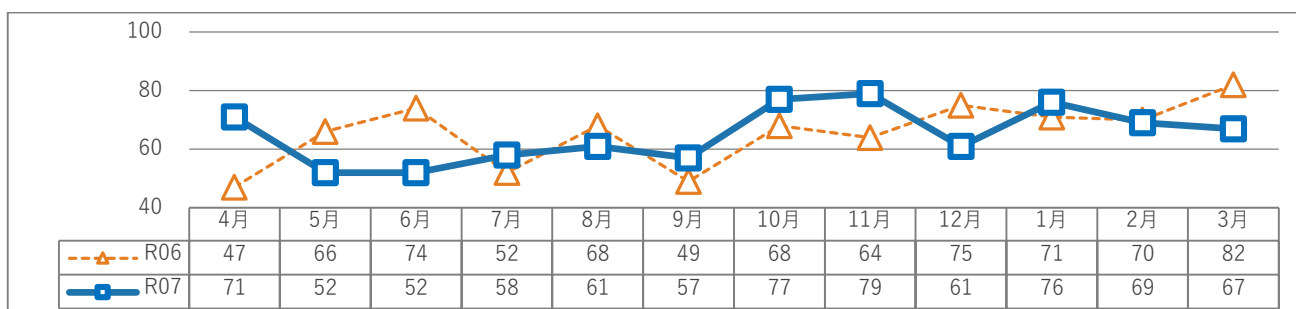


図15 骨塩定量

リハビリテーション部

技師長：井嶋 昭二

I 人事

令和7年度は言語聴覚士1名の新規採用と作業療法士1名の退職がありました。退職した作業療法士1名は再任用（時短勤務）となり、理学療法士10名（うち1名は、地域包括ケア病棟専従療法士）、作業療法士5名（うち1名は再任用）、言語聴覚士4名（うち1名は11月より育児休暇から復帰）の19名の体制でした。

II 業務実績

1. 診療実績

令和7年度の理学療法・作業療法・言語聴覚療法各部門の実績は図1～3のとおりです。

心大血管疾患リハビリテーションは、これまで外来患者さんのみを対象としていましたが、12月より入院患者さんも対象となりました。

一昨年度は、理学療法は運動器リハビリテーション、作業療法は廃用症候群リハビリテーションが実施件数最多となりましたが、昨年度は理学療法、作業療法とも運動器リハビリテーションが最多となりました。言語聴覚療法は例年通り廃用症候群リハビリテーションが最多となりました。リハビリテーション部全体の合計件数は、前年比1%増となりました。

新患処方数については、理学療法では前年比と同程度でしたが、作業療法は2%、言語聴覚療法では11%増となりました。

2. 実習生受入

〔理学療法部門〕

- ・令和7年7月7日～8月29日

鳥取市医療看護専門学校 臨床実習 1名

- ・令和7年6月16日～8月8日

YMCA米子医療福祉専門学校 臨床実習 1名

- ・令和8年2月24日～3月6日

YMCA米子医療福祉専門学校 臨床実習 1名

〔作業療法部門〕

- ・令和7年7月7日～9月5日

鳥取市医療看護専門学校 臨床実習 1名

- ・令和8年1月14日～2月21日

鳥取市医療看護専門学校 評価実習 1名

3. 講義・依頼事業

<院外>

- ・鳥取市市民健康広場

「聞こえのフレイル」

令和7年10月5日 講師・西垣有賀子（言語聴覚士）

会場：とりぎん文化会館

- ・鳥取市立病院とことん学ぶ研修会

「リハビリテーションについて」

令和7年10月25日 講師・下村教光（理学療法士）

会場：とりぎん文化会館

- ・鳥取市立病院出前講座

「あなたも健康になる方法～小さな運動習慣を作ろう～」

令和8年3月16日 講師・下村教光（理学療法士）

会場：宝木地区公民館

<院内>

- ・骨粗鬆症リエゾンサービス委員会

「骨粗鬆症に対する知識の共有とFLSの意義について」

令和6年10月26-27日 講師・阿合佑平（理学療法士）

鳥取看護高等専修学校での治療法概説「リハビリテーション」の講義は、閉校に伴い令和6年度をもって終了となりました。

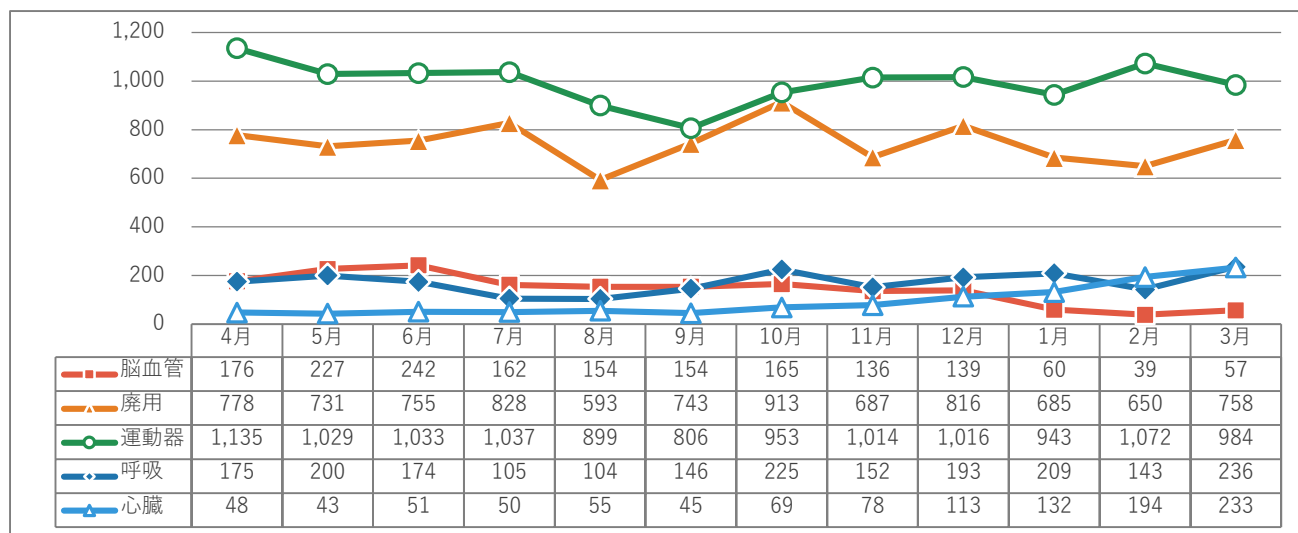


図1 理学療法件数

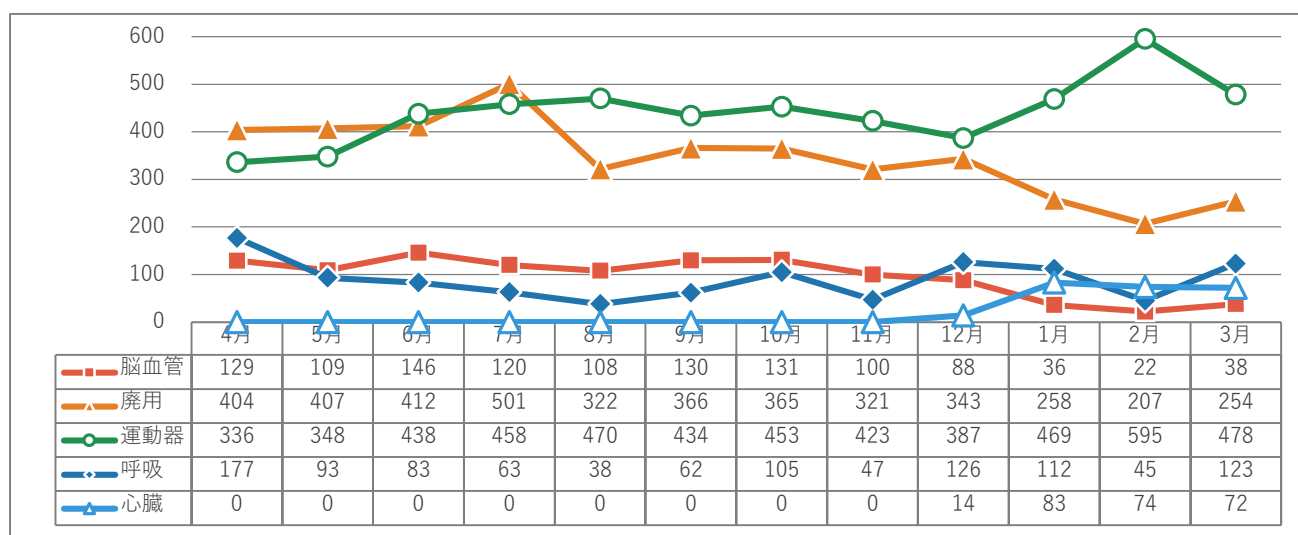


図2 作業療法件数

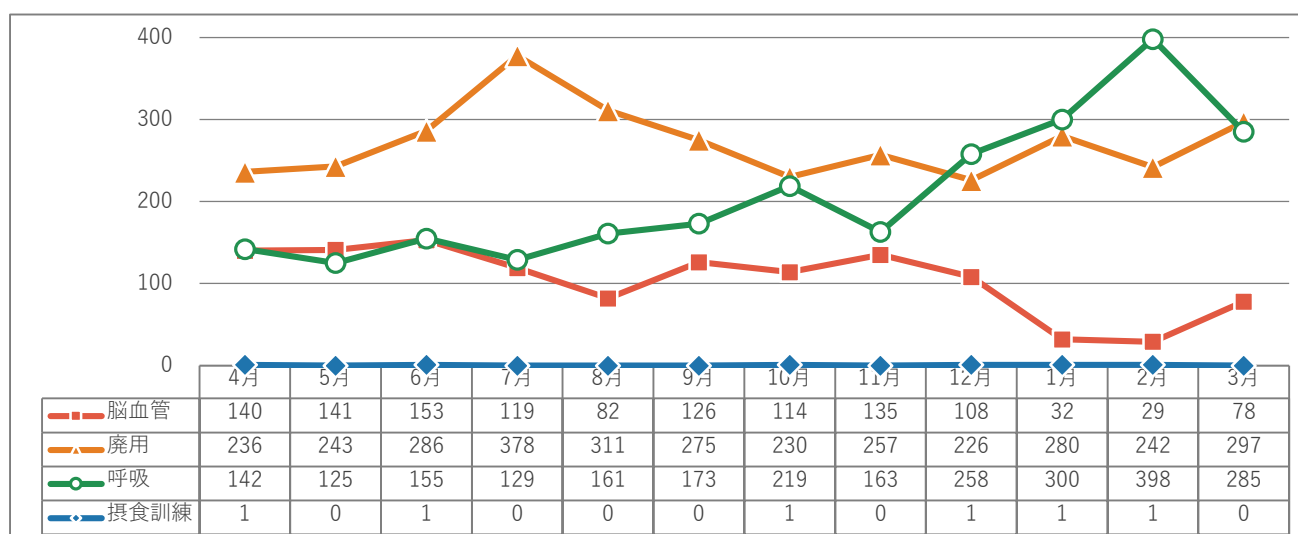


図3 言語聴覚療法件数

臨 床 工 学 部

技師長：藤原 弘昌

近年、積極的なタスクシフト・シェアの推進により業務範囲の拡大を図ってきたが、令和7年度は部署内におけるローテーション業務制を導入し、より効率的かつ柔軟な業務体制の構築に努めた。また、医療機器管理業務においては、安全かつ有効な運用を目指し、機器更新時期の検討や適正配置の見直しを実施した。

I 医療機器運用体制の構築・見直し

1. ペースメーカ遠隔モニタリングシステム導入に向けた体制整備

日常生活における作動異常の早期発見を目的として、ペースメーカ遠隔モニタリングシステムを導入した。運用開始に向け、運用方法及び院内における情報共有体制等について検討を行うとともに、必要な手順の整備や関係部署との調整を実施し、円滑な運用体制を構築した。

2. 超音波診断装置の画像管理体制の構築

救急外来における超音波診断装置の検査画像を電子カルテへ保存・共有する体制を構築するため、関係部署との調整を行った。また、画像保存及び運用方法に関するマニュアルを作成するとともに、関係職員を対象とした研修会を実施し、円滑な運用開始に向けた環境整備を行った。

3. 医療機器中央管理体制の見直し

輸液ポンプ及びシリンジポンプの使用状況について調査・分析を行い、各病棟における配置定数の見直しを実施した。また、機器の効率的かつ安定的な運用を継続するため、更新時期及び更新台数を含めた更新計画を策定した。

II 医療機器導入・更新への対応

1. IABP更新に伴う導入支援

血管撮影室に設置するIABPの更新及び運用開始に伴い、機器製造業者と連携し、導入部署を対象とした操作説明等の研修会を実施した。また、機器設置後の動作確認や運用調整を行い、安全かつ円滑な運用開始を支援した。

2. 陰圧人工呼吸器更新に伴う導入支援

4階東病棟に設置する陰圧人工呼吸器の更新に伴

い、機器製造業者と連携し、導入部署を対象とした操作説明等の研修会を実施した。また、使用環境に応じた機器設定の調整を行うとともに、運用開始後に発生した各種トラブルへ対応し、安定した運用を支援した。

3. センサーマット導入支援

各病棟へのセンサーマット導入に際し、納入業者と連携し、導入部署を対象とした操作説明等の研修会を実施した。また、使用環境の整備や運用調整を行うとともに、運用開始後に発生した各種トラブルへ対応し、円滑な運用開始を支援した。

III 教育・学術活動

1. 実習生受け入れ

出雲医療看護専門学校臨床工学科の実習生1名を受け入れ、臨床工学技士業務に関する実習指導を行った。(令和7年6月9日～27日)

2. 学会発表

第15回中四国臨床工学会

(令和7年9月6日～7日、広島国際会議場)

「パッシブタグを用いたRFIDシステム運用方法の検討」

鳥取市立病院 臨床工学部 橋本 遼平

IV 業務実績

令和7年度における臨床業務及び医療機器安全管理業務の実績を以下に示す。

表1 従事した主な臨床業務の実績

内容	件数	備考
血液透析療法（HD）	43	
持続血液ろ過透析（CHDF）	11	
ペースメーカ植込み手術関連業務	13	
ペースメーカ関連業務	142	外来チェック：110件
マイクロ波焼灼術	5	MWA：4、RFA：1
血管撮影室関連業務（循環器内科）	211	PCI：70件、EPS：8件、EVT：1件
血管撮影室関連業務（放射線科／脳外科）	1	
手術室関連業務	1,389	眼科手術関連業務：1,156件 ロボット手術関連業務：165件 （ダヴィンチ：79件、ROSA/MAKO：86件） ナビゲーション関連業務：58件
内視鏡室関連業務	6,696	ESD：66件、ERCP：205件
その他	12	在宅用医療機器対応等

表2 医療機器安全管理業務の実績

内容		件数
点検修理対応		219
メーカー修理対応		48
日常点検業務	輸液ポンプ・シリンジポンプ	2,422
	生体情報モニタ等	928
	人工呼吸器・麻酔器	65
	血液透析関連装置	43
	深部静脈血栓予防ポンプ	207
	その他（AED、CRP測定装置等）	606
定期点検業務	輸液ポンプ・シリンジポンプ	329
	特定保守対象機器 （人工呼吸器、IABP、PCPS、除細動器、 保育器、血液浄化装置等）	72
	救急室ME機器	60
	その他、AED等	44
	電波管理対象機器	65
手術室点検業務	生体情報モニタ、麻酔器等	3,351
安全管理	医療機器研修会の開催 （32機種 ※うち新規導入9機種）	34
	医療機器安全情報等の収集 （公的機関、メーカー）	33

栄 養 管 理 部

部長：横山 康博
文責 管理栄養士長：山本 千幸

止まらない食材費高騰と物資制限による厳しい環境が続く中、持続可能な給食管理を目指し、多方面の見直しへ着手した1年となった。今年度は医療安全・感染対策の委員会活動をより活発にし、安心・安全で「おいしい」病院食の提供のため、食のプロとしての意識を促す取り組みを開始した。管理栄養士はそれぞれの専門性を活かし、チーム活動など臨床現場で役割を果たした。

I 食事提供数（表1）

治療食割合を示す特食比率は年間平均28.8%。

II 特別メニューの提供

実施回数106回1,054食（×50円＝52,700円）例年人気メニューのラーメン・焼きそば・丼ものを中心に提供した。食材費高騰と食材ロス問題から、特別メニューの在り方を模索、より多くの方へ楽しんでもただける病院食展開を検討中である。

III 行事食

季節の行事に加え疾病予防啓発を兼ねた行事食を積極的に取り入れている。高血圧デー（5月）・ロコモ

予防の日（6月）・栄養の日（8月）・骨粗鬆症デー（10月）・糖尿病週間（11月）を実施、治療食へも展開した。9月12日の県民の日には県内特産品を使った献立を提供（写真）。



IV 栄養指導件数

年間865件（入院315・外来550）、加算率96.5%（図1）。継続フォローは延206件、診察待ちの時間を活用できるように調整し行っている。

表1 食数集計表

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般食合計	11,807	11,170	10,784	11,833	11,098	10,836	12,144	12,238	12,723	12,511	12,783	12,733	142,660
特別食合計	6,042	5,189	4,918	5,106	4,675	4,032	4,008	4,200	4,694	5,228	4,746	4,771	57,609
濃厚流動食	75	201	148	111	162	234	196	80	67	276	225	126	1,901
病後児・託児所	222	251	228	377	274	270	291	261	303	282	266	282	3,307
その他	94	130	131	139	139	118	142	130	120	137	114	128	1,522
合 計	18,240	16,941	16,209	17,566	16,348	15,490	16,781	16,909	17,907	18,434	18,134	18,040	206,999

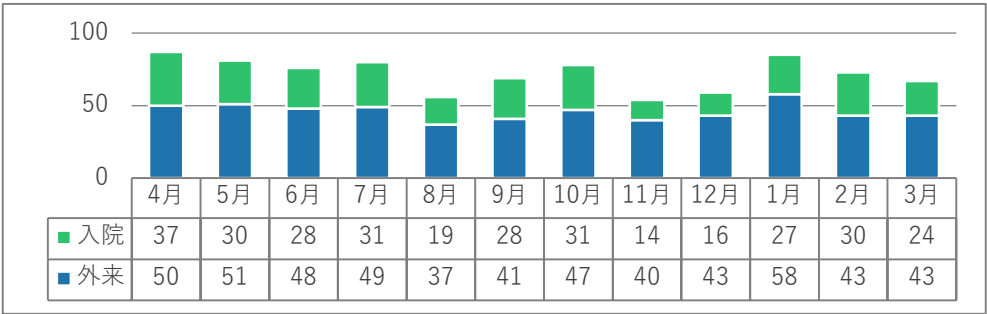


図1 栄養指導件数